

### H30.10.5 心のケア研修会 アンケート集計結果

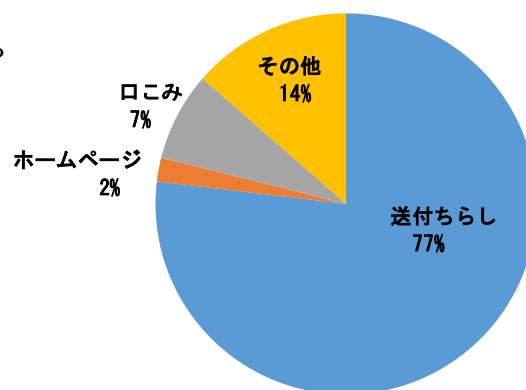
「子どもの心の回復過程とは？ ～自己肯定感を育む子ども支援を考える～」

講師：真生会富山病院 心療内科部長 明橋大二先生

参加者：246名、アンケート回収者 202名（アンケート回収率 82.1%）

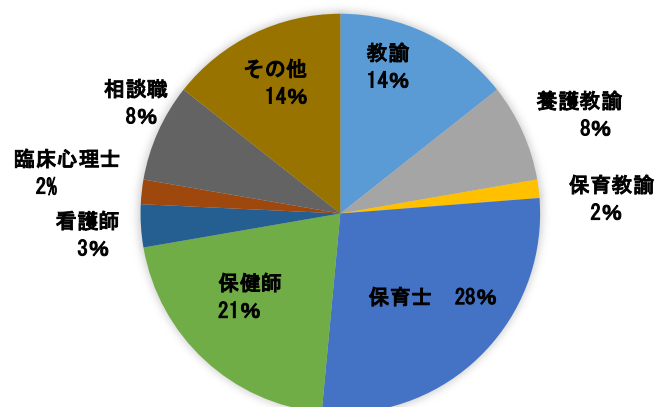
#### 1 本日の講演会は、何でお知りになりましたか？

送付チラシ	153
ホームページ	4
口コミ	15
その他（職場等）	27



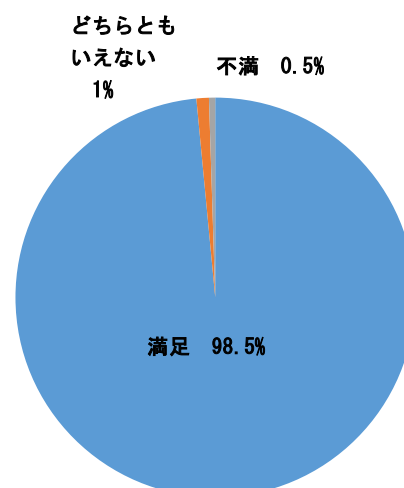
#### 2 ご職業を教えてください。

教諭	29
幼稚園	6
小学校	19
中学校	1
支援学校	1
不明	2
保育教諭	3
養護教諭	16
保育士	56
保健師	42
看護師	7
臨床心理士	4
相談職	16
その他 (NPO 職員、児童支援員等)	29



#### 3 本日の講演会はいかがでしたか？

満足	196
どちらともいえない	2
不満足	1



#### 4 ご感想を教えてください。

●自分の事、家庭の事、保護者、子ども達の姿を思いながら聞きました。自己肯定感の意味を改めて確認しました。いろいろな問題はありますが、目標が「これ」だというpointなど、わかりやすく学びました。(保育士)

●とても分かり易く聞くことができました。自己肯定感の重要性、親支援の仕方等、今後の活動に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。(保育教諭)

●大変貴重なお話しをお聞きでき、これからの日々親子に接する上で、自らの子育てに心していきたいと思います。我が子が幼少期に読んだ絵本が今は箱の中でしたが、久しぶりに出してきてみようと思いました。ありがとうございました。(保育士)

●自己肯定感の大切さを講演会を通して学ぶことができた。(保育士)

●子どもの自己肯定感を育むことの大切さを改めて感じた。また子どもと同じくお母さんの自己肯定感を高めることも大切なことと知り保育士という職業で母親と接することも多いので、大変さや頑張りを認め理解し、親支援・子育て支援へとつなげていきたいと思った。子どもの気持ちに寄り添いながら保育に活かしていきたいと思う。(保育士)

●保育士としては勿論、自分がいつか親になった時に参考にしていきたいと思いました。自分がこれまで大切にしてきたことが保育をしている中で時々まちがっているのかと感じることもありましたが、正しかったことに気付き、安心もしました。まずは自分の自己肯定感を高め、頑張っていきたいと思います。(保育士)

●親ごさんに、がんばって、と言うところでした・・・先生のお話を聞き、がんばっているね、に切りかえて声をかけていきたいと思う。(保育士)

●先生の著書は読んでいましたが、あらためてお話しで聞くことができ、とてもよかったです。学んだことを父兄の方に何らかのかたちできちんと伝えていきたいと思います。(保育士)

●自己肯定感を育むポイントを押さえることができ、明日から自分なりにやってみようと思います(見方を変えること)(保育士)

●自分自身の仕事が自己肯定感を育むとても大切な時期に関わっているのだと感じました。お話しを聞きながら関わっている子ども達や保護者の方の顔が思い浮かびました。子ども達だけでなく保護者の方に対しても小さなことでも頑張っていることを褒めて認めたり、悩んでいることを話してもらえるような環境を作っていくことが大切だと思いました。少しずつ取り組んでいきたいです。(保育士)

●先生のお話しに涙がこぼれそうになりました。母親の自己肯定感を支えられるよう、私自身も自己肯定感を高められるようにしていきたいです。(保育士)

●心につたわるお話を聞けました。ありがとうございました。自己肯定感についての意味が理解でき、今後の職務の参考としたい。(保育士)

●長男の子育て中に明橋先生の子育てハッピーアドバイスを愛読していました。それがきっかけで、自分のクラスで悩んで保護者や友人に本をかしたりハッピーアドバイスで読んだ内容を伝えて救われたことがあり、今日は本当に本当に先生のお話しをきくことができうれしかったです。(保育士)

●すぐにでも実行したい内容がたくさんあり、とても勉強になりました。ありがとうございました

ました。(保育士)

●保育士として日々抱える悩みが、今回の講習を通して少しスッキリしたように思います。ありがとうございました。(保育士)

●・自己肯定感がとても大切だと改めて感じました。・自己肯定感できる様、日々とりくんでいきたいとします。(保育士)

●あつという間に時間が過ぎてしまいました。自分の子育てを振り返り、決して無駄な時間ではなかったのだと安心できたり、親や子を変えようとするのは否定のメッセージに繋がるということに衝撃を受けたり、自己肯定感=生きる力、ということを常に頭に入れ、明日からの保育を改める所は改め、子ども達と接していきたいとします。ありがとうございました。(保育士)

●自己肯定感を育むには・・・改めてたくさんのことを考えさせられました。支え合うことが大事、日々努力し前を見ながら頑張っていきたいです。(保育士)

●自己肯定感の大切さがよく伝わりました。保育でも活かしていきたいです。(保育士)

●子どもはまわり大人の対応でかわること、子育ては親支援という話をとてもわかりやすく話して頂き、とてもいい時間になりました。(保育士)

●大変お世話になりました。明橋先生の本は、十数年前からよませていただいていたので、今回講演がきけて大変うれしく思います。子育てはもちろん、保育の面でも先生の言葉を胸に支援していきたいとします。(保育士)

●子どもの自己肯定感を育むスキルや親支援を学ぶことができ、明日からの仕事に生かしていきたいとしました。(保育士)

●自己肯定感の土台となる、2,3歳の子どもたちとかかわっている中で、子供たちに求めることが多すぎたり、レベルが高すぎていると感じた。今後は、「今の子どもたちへの姿」にしっかりと目を向け一つひとつ大いに褒め自己肯定感を高めていくかわり方をしていきたい。(保育教諭)

●なかなか、今の子どもたちは、自信がなかったり、あるいは、問題行動が目立つ子が多く目にしている、私たちも日々の保育が大変であります。先生の講話を聞いて、子どもの心のケアをしていけば回復するということを学び、自己肯定感を身につけることが大切であることを学んだので、子どもだけでなく、保護者も同様に支援していくことが今後大切であると思いました。(保育士)

●子ども保護者の自己肯定感を高めたい、と思う場面が日々増えてきている中、改めて肩に力を入れず、私達支援者が褒めたり認めたりしていく事を大切にしたい。(保育士)

●貴重なお話をありがとうございました。分りやすくお話しして頂けて改めて考えさせられました。子どもの自己肯定感をそだてていくには、親の自己肯定感を支える、親を責めるのではなく褒めて、認めていく事 etc が大切ということを感じさせて頂きました。ありがとうございました。(保育士)

●子どもたちへ対して、愛情をもって接することの大切さを知ることが出来た。話を聞いて、「なるほど」と思うことが多数だった。また参加してみたいです◎ (保育士)

●痛みやつらさをわかってあげる。よりそってあげることの大切さ。「ありがとう」の言葉を大切にしたいと強く感じました。さっそく仕事で試してみたいです。先生のお話、とても

楽しかったです。2時間があったという間でした。(保育士)

●映画館での研修は初めてでした。スクリーンが大きくて見やすく、また、わかりやすい話で大変勉強になりました。(保育士)

●とても分かりやすいお話しでした。母親支援の大切さを改めて感じ、早速実践につなげていきたいと思いました。今日のお話しを職員でも共有したいと思います。(保育士)

●幼稚園教諭をしています。園で問題になっている子どもの行動が今回の話にぴったりと当たっていて、とても参考になりました。心のパイプ詰まりをどのようにしていくべきなのか、具体的に教えていただいたので、勉強になりました。ありがとうございました。(幼稚園教諭)

●何よりわかりやすく、時間が早く感じるくらい引き込まれました。今日のお話しをきいて、基礎にしっかりもどれたと思います。ありがとうございました。親や子どもへの自分のまなざしを見直すことができました。(幼稚園教諭)

●語り口がやわらかく、とてもわかりやすく良かった。現在はこども園の園長をしているが、”自己肯定”を育てるのは0才～3才までといわれるが現在保護者をみていて親自身の自己肯定感が育っていない事も感じている。やってる事できている事を褒めてあげる事が大切と言われた事が非常に心に残った。これから努めて親ともかかわっていきたい。(幼稚園教諭)

●ユーモアもあり楽しかった!!(幼稚園教諭)

●具体的な事例をあげてお話しくださったので、とても分かりやすかったです。今後の子どもへ(親へも)の対応でいかしていきたいです。自己肯定感の大切さ、そして今は、親の自己肯定感を高めていくことが大切であることを知ることができ、参加して良かったと思いました。ありがとうございました。(小学校教諭)

●とてもわかりやすかったです。校内の研修会で伝講したいと思います。(本校は、全国学力テストの質問紙のところで、自己肯定感が全国・県に比べてすごく低かったのです。学力もちょっと低かったのですが・・・)今後の子どもたち、保護者への支援に生かしていきたいと思います。(小学校教諭)

●子どもの問題行動改善の方法を教えていただいた。「ほめる」大切さは、分っていたつもりでも、ついつい悪いところに目がいきがちで、なかなか難しいこと。改めて気持ちを強くして「ほめる」に徹する必要を感じました。(小学校教諭)

●自己肯定感を原点として、じっくりと保護者への対応を進めていき、子どもの健全育成に努力していきたい。(小学校教諭)

●自己肯定感を育てるには、社会のあり方も重要なのだと思いました。大人も子どももみんな同じなのだと思いました。自己肯定感が強すぎて、まわりと上手につきあえないのではないかとされる子どもたちにはどのように支援したらいいのかと考えることもあります。(小学校教諭)

●先生の「子育てハッピーアドバイス」を読んで以来、子どもと接する時に気をつけていきたいと思っていたのに、今日あらためてお話しを聞くと日々の忙しさに負けて、子どもたちを「ほめる」ことをしていないなと反省しました。「できなくて当たり前」の目で明日から接していけるよう自分にも心の余裕をもてるようになりたいと考えています。(小学校教諭)

諭)

●常日頃から自己肯定感を育てることは大事だと思ってきましたが、先生のお話しをお聞きして心から納得することができました。親の肯定感を支えることの大切さについては目からうろこでした。ありがとうございました。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。(小学校教諭)

●分りやすかったです。(小学校教諭)

●子供の今の姿を受け入れほめること、ありがとうと伝えることを心がけていきたいです。(小学校教諭)

●ありがとうと言いたい、子、親のがんばりをほめたいと思いました。ありがとうございました。(小学校教諭)

●震災時3～7才の子どもたち長期避難所生活(5～6か月も体育館等)の子供たちが今、小5～中2の子供に重大な影響が出ています。今ケアしないとあとで大変なことになる予感がします。でもそれができていないのが現状です!!(小学校教諭)

●とてもわかりやすく、子どもの心のしくみを教えていただいたので、仕事に生かしていきたいと思います。(特別支援学校教諭)

●”親や子どもを変える”のではなく、頑張りを認めてあげることが自己肯定感を高める第一歩であるということ、その気持ちをもって子どもたちと向き合っていこうという気持ちになりました。大変参考になりました。どうもありがとうございました。(小学校教諭)

●心にすうっとしみ込んでくる講演内容でした。教員としては数十年子どもに接していると、どうしても自分の型ができてしまい、こちらからのおしつけになりがちです。「がんばれ!」というのが自分自身たくさん口にしてきたなと感じました。もっと力を抜いて、子どもたちや親御さんに接していきたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。(小学校教諭)

●子と親のパイプの詰まりをほどいていく段階についてよく理解できました。ありがとうございました。(小学校教諭)

●学校では、やはり親に変わってほしいと働きかけることが多いです。難しいなあと感じています。努力していきたいです。(養護教諭)

●学校に対して攻撃的で「うちの子だけいつも責められる」「他の子は指導しているんですか」等言う保護者がいて、困っていました。しかしそういう親自身の自己肯定感について、考えたこともなかったな、と今日のお話しを聞いて気付きました。今後はねぎらいや感謝の気持ちを積極的に伝えていこうと思います。(養護教諭)

●子どもの問題行動の根本にある原因がよくわかりました。子どもとしっかり向き合って、自己肯定感を高められるように対応していきたいと思いました。(養護教諭)

●親の支援についてふれていただきありがとうございます。共感することがとても大きかったところです。担任との間に立ち支援することが多く、とても勉強になりました。(養護教諭)

●普段なかなか伺うことのできないような先生方が毎年講師としていらっしゃるので楽しみにしています。今年も先生のお人柄のにじみ出る口調での語り、内容でのお話で、ほっこりした気持ちになりながらお話を伺うことができました。支援者自身があたたかい気持ちにな

りながら、しかも説得力のある内容での講演は大変貴重な機会です。そのような場を毎年提供いただき、ありがとうございます。子育て支援＝親支援 親の自己肯定感を高め支えていく 本当にそのことにつきます！ここを意識してかかわること大事ですね。(養護教諭)

●自分の子育てにも職の上でも通じる内容で、頭があちらこちらに行き、考えさせられました。なかなか近道はみつきりませんが、じっくり向き合っていこうと思いました。(養護教諭)

●母親のサポート(親支援)について支援者として、親をかえようとしなないという話が心に響きました。(養護教諭)

●自己肯定感の大切さ、伝わりました。先生(支援者)として母親として、大変、勉強になりました。ありがとうございますの言葉を大切に日々宝を育てていきたいと思います。ありがとうございました。(養護教諭)

●甘えさせる、甘やかす違い、改めて考えさせられました。心の回復プロセスについても具体的にくわしく教えていただき、確認できました。ありがとうございます。子どもだけでなく親の自己肯定感を支える、高めるということも大切だということ、変えよう→否定、という話、ハッとさせられました。心にとめていきたいと思います。よりそう、ということは本当に難しいですが、今日のお話しを心に刻んで、子ども、保護者に少しでもよりそっていききたいと思います。(養護教諭)

●自己肯定感を育てる、持たせるための方法(心構え)を教えていただけたように思います。まずは親子のがんばりをほめるところから始めたいです。(教諭)

●とてもためになりました。自己肯定感の必要性を改めて感じました。子どもも親も全ての人をみとめ、ねぎらい、わかる、実行したいと思います。(教育サービス業)

●最後の絵本のお話が、じんわり心にしみました。講演をひととお聴きして、大人がやりがちな関わりに、はっとさせられました。(行政)

●お母さんに、がんばれ、もっとしっかり、と思ってしまうたり、言ってしまうていたが、「以前のその人と比べる」ということを学びました。日本の子が、大人が、自己肯定感が高くなることを願っております。(保育士、行政窓口)

●自分の子育てをし始めた時に読んでいた本の作者ということもあり楽しく話を聞くことができました。支援者という立場、子育て中という立場でもあるので今後の仕事、生活に役立てたいです。(地方公務員)

●子どもだけでなく親への対応が聞けた部分が良かった。(児童福祉司)

●親を肯定するということが、それが子育て支援という開眼ができました。ありがとうございました。(地方公務員)

●先生のやさしい口調での自己肯定感を育むという内容のお話しが心にひびきました。問題行動＝悪いこと/おさめなければならないこと と思っていましたが、第3段階のだいたいなプロセスでもあることにおどろきました。(行政)

●養育能力が低い、親の出来ていないところにばかり目がいきがちですが多少なりとも出来ているところに着目する事が大切だと学びました。先生の優しい話し方や笑いのセンスで心にひびくものがありました。相談職をがんばっていこうと思いました。(市役所職員)

●具体的な例を交えながら、とても身近な内容が多かったことで、わかりやすく、また、す

ぐに実践で役立つことができました。(支援員)

●幸いに大人(親)とかかわることが多いので、まずは大人(親)を認めてあげ、褒めてあげて自己肯定感を持って頂けるような言葉掛けや支えをしていきたいと思いました。楽しく学べました。ありがとうございました。(子育て支援センター支援員)

●昔から先生の本(子育てハッピーアドバイス等)を読んでいたもので、どの話もストンと心におちました。自分の子育て、仕事で関わる子どもたち、そして何より保護者への対応を考え直す良い機会になりました。”できるようになったことをほめる”大切ですね。(小学校支援員)

●明橋先生のお話しということで楽しみにしてきました。中・高生の息子達にいつありがとうを言ったかなあと思いました。手がかからなくなり、自分で簡単な食事等もできるので、できてあたりまえとっていました。ありがとうと言ってみたいです。(子育て支援員)

●今の存在を受け止め認めることの大きさがよく分かりました。親のサポートも大切であること、その方法もよく分かりました。(子育て支援員)

●親(養育者)の自己肯定感の低さは常々感じております。共感の大切さを再確認出来ました。自分も子育て中で、子どもの人間関係に悩む姿をみているので、今後もより心に寄り添えるよう努めたいと思います。(NPO子育て支援)

●甘えと甘やかしの違いの話がわかりやすかったです。たくさん”甘え”させてあげたいと思います。大人(親)も、自己肯定感を高めることが大切ですね。ありがとうございました。(NPO事務員)

●普段の活動にてらしあわせて、大変参考になりました。子の支援、親の支援、支援者の支援を考えていこうと思いました。(NPO職員)

●本日はありがとうございました。子どもとの関わりの中で再確認できたこと、大人の方に対しての考え方(接するときの)を見直すことができました。自己肯定感の育み方を、しっかり考えて接したいし自分自身のことも考えようと思いました。(NPO法人)

●子どもとの関わり、親との関わり、フォローについてすごくためになりました。これからの自分の子育てや子育て支援の中で今日学んだことを生かして行きたいです。(NPO法人子育て支援員)

●親支援の大切なポイントをわかりやすく説明していただきありがとうございました。がんばりを認めて、ありがとうと伝える、怒りが出ているサインを見逃さない様にしたいです。(地域子育て支援拠点)

●思春期、パイプ詰まりは、子どもだけの問題ではなく、親と子、両方のこと。第1段階～回復のステップ、とてもわかりやすく、支援者としての役割、”言語化”のプロセスをサポートすること、これに徹すること。(子育て支援拠点スタッフ)

●子ども達とどう接したら良いか、具体的に知ることができました。(ファミリーホーム生活補助)

●大変わかりやすく、本当にためになるお話しでした!!(知的障害者通所施設生活支援員)

●対象者絞った研修会のようなので、もう少し踏み込んだ内容でも良いと思いました。障害福祉の援助のなかでも大切にしている自己肯定感ですが、保護者への対応、後輩の育成にも活かしていけるところと思いました。大切ですね。(障害福祉サービス事業所職

員)

●子どもを育てる親や大人たちこそ心の健康を保つことが大事だと思いました。私たち大人も自己肯定感を大切に育てていきたいと思いました。(児童福祉施設職員)

●実践的でわかりやすかった。(相談職)

●「パイプ詰まり」とてもわかりやすく、又、説明しやすい表現で親と接する時、大いに役立つと思いました。(相談職)

●保育所に勤務していた時に、明橋先生の本を使わせていただきました。親の悩みに適切なアドバイスが来て、大変助かりました。現在は、相談員をしていて、電話、面接などで幅広い年齢層の人達とお話しをしますが、自己肯定感が低い人が多いと思います。「ほめる」と「えっ!!なんで?」と言われ、ほめられたことがないのだろうな、と感じます。これからの相談に先生のお話しを生かしていこうと思います。(相談職)

●とても素晴らしいお話しでした。絵本にも感動しました。ありがとうございました。(相談職)

●ありがとうございました。(相談職)

●内容としては、支援(相談)職として必要な心がまえの基本を思い出させてもらえたように思いました。どうしても焦ってしまうことも多い職種ですが、まずは自分たちが、子どもに寄り添いながら、パイプ詰まりを解消していきたいと思います。また、何より、先生の優しい声。これこそが最も支援に必要な力だと感じました。(児童心理士)

●仕事、自分の子育てを思い浮かべながら、聞くことができました。とても具体的で分かり易かったです。”変えよう”ではなく、できている1%をほめる、認める、できるところから実践してみようと思います。ありがとうございました。(児童福祉司)

●しみじみと感じりました。職場の職員に不満を持っている(30代)子どもへの対応にヒントを得られました。(臨床心理士)

●思春期に入ると、子どものほめてほしいことと、大人がほめるところのずれがでてくる”という所で、「ありがとう」と言う関わりが有効な関わりである、というお話しが、とても良いお話しをきけたように思いました。(臨床心理士)

●自分の担当するケースが子、親とも自己肯定感がひくく、今日のお話しを早速次回の面接で活かしたいと思いました。(臨床心理士)

●大変分かりやすく、良かったです。(産業カウンセラー)

●とても分かりやすく実践しやすい内容でした。(保健師)

●印象に残ったのは、子どもを変えようとするよりも子どもが持っているいい所に注目するということでした。ついつい子どものために・・・と、言ってきかせないと思ってしまいましたが、まずは視点をかえて今の子どもを受けとめてできていることを言葉で子どもに返してあげることが自己肯定感を上げることにつながるのだということに気がきました。(保健師)

●大変面白く、楽しく学ばせて頂きました。明橋先生のお人柄の素敵さがよく伝わってきました。Self estine、大切と知っていながら、私は子らにその上にたつべきものを求めてしまっています。反省です。(保健師)

●自己肯定感のプロセスがあると知って、これから自分の子の関わり方、支援する子の見立



てにとっても役立つと思いました。絵本、とてもよかったです。(保健師)

●自分自身のこと、自分の子育て、仕事に関わる母子等、色々な人との関わりを振り返るような内容でした。今日、参加できなかった同僚にも内容を伝えたいと思います。とても良かったです。(保健師)

●子育てには、自己肯定感が一番大切と知り、またそれは子どもだけでなく大人にも必要なことということを知りました。今後の支援に活かしていきたいと思います。(保健師)

●全ての土台は自己肯定感であることが分かった。子どもだけでなく親の自己肯定感も考えながら関わると良いと感じた。子どもや親だけでなく支援者の自己肯定感も高める必要があると感じた。(保健師)

●仕事ではもちろん、自分自身の子育てにも役立つ内容でした。(保健師)

●とてもわかりやすいお話しでした。心のパイプの段階がわかりやすかったです。絵本「くまのこうちょうせんせい」がとても感動しました。(保健師)

●とても楽しみにしていました。(保健師)

●心の回復過程について、各段階を具体的にうかがうことができイメージすることができました。子どもだけでなく、親の自己肯定感を高めるための支援の大切さを感じました。子ども・親の気持ちを適切に受け止め、支援できるよう、今回の研修を参考にして取り組みたいです。(保健師)

●子供の心だけでなく、母の心にも焦点をあててわかりやすかった。(保健師)

●「ありがとう」は最高のほめ言葉、という点に気付いて良かったです。心のパイプ開通のための第1～5段階プロセスを知ることができて、支援の出口が見えて助かりました。ありがとうございました。(保健師)

●興味のあった内容でしたし、ハッピーアドバイスシリーズをよく読んでいたので、とても関心のある講演会でした。とてもよいお話しをきくことができてよかったです。(保健師)

●先生の著書を多数読ませていただいております。我が子の子育てや仕事の場面で参考にさせていただいています。実際に先生の講演を生で聞くことができ大変勉強になりました。(保健師)

●愛着障害のケースを担当しています。お母さんへの関わり方を見直したいと思いました。(保健師)

●子どもの自己肯定感を高める支援の必要性を感じています。でも、その前に親の自己肯定感を高める支援をすっかり忘れていたことに気づきました。(保健師)

●講義の内容が大変分かりやすかったです。先生の言いまわしや具体的な例に先生の人柄がとてもあらわれており、穏やかな気持ちで、最後までお話しを聴くことができました。最後の音読もじんわりきて、帰宅したら我が子の日頃のがんばりをねぎらいたい気持ちになりました。(保健師)

●親支援は、親の自己肯定感を支えること。親子さんの話をきく時、すごく大事だなと思いました。(保健師)

●自己肯定感を育む大切さと、その具体的な方法を学べて良かったです。(保健師)

●魅力的なテーマであり、講師のお話しも大変わかりやすく、おもしろかった。親たちにもぜひ伝えたい内容だった。絵本を読んでいただき、涙がでました。よりそえる支援者であり

たい。(保健師)

●支援者として、母として子育てについて考えた研修でした。「心配な親ほど、できている1%をほめる関わりを行う」困った時ふりかえりたいと思います。(保健師)

●子育て支援に携わっているので、お子さんと親への支援について、わかりやすく、あっという間でした。親をかえようとするよりも、できていること、認めてあげることが信頼につながっていくのだとわかりました。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。(保健師)

●自己肯定感について詳しく、具体的な関わり方を教えて頂きありがとうございました。早速、仕事で生かしていきたいと思います。(助産師)

●思春期の子供への声がけ、思春期の子供の心理、についてのお話しは子育ての参考になりました。(看護師)

●自己肯定感が土台となり、生きる力、はぐくむ力となることを話して頂き、自分の自己肯定感はそのなかと振り返ることができました。今後、支援者として、親子の自己肯定感を高められるよう、ほめ方のスキルをみがき、支援したいと思いました。”大人と子どものパイプ”という心の回復過程について、とてもわかりやすくお話し頂き、学びとなりました。ありがとうございました。(看護師)

●本をほとんどもっているのですが、またあらためて参考になりました。(看護師)

●「学んでほしい、というのは、親を否定すること、ほめられる経験をさせる」ととても大切だと思いました。(看護師)

●参加者がたくさんでびっくりしました。(その他)

●3歳までの間に自己肯定感を育むことが重要であるという話を聞き、出産前からお母さんが知識を身につけておく必要があると思いました。お母さんをサポートする体制が整っているとお母さんも安心して育児ができると思います。支援者も統一した対応ができると母子ともに、自己肯定感が育つと思いました。(その他)

5 今後、どのような内容の講演会をご希望されますか？

●同様な話に基づいてきてみたいと思います。(保育士)

●親の心を軽くする気の持ち方、又、周囲の接し方など(保育士)

●子ども関係であれば何でも聞きたいです。(保育士)

●今回のような講演がいいです。(保育士)

●親(保護者)と支援する側の私達がともに考え、学べるもの(保育士)

●また明橋先生のお話しをききたいです。(保育士)

●親支援など・・・(保育士)

●昔に比べると”気になる子”が増えてきているような気がします。どうしてそうなったのか・・・子どもを取り巻く環境、社会や親、地域なども含め環境が変わってきたこと等と関係があるのか、今日のお話しと関係してくるのかもしれませんが、心身共に健康に育つには何が必要なのか・・・自己肯定感を育てる環境を作っていく世の中にするのにどうすれば良いのか・・・考えさせられます。(保育士)

- 愛着障害の子が多く見られるので、そのような講演をおねがいしたいと思います。(保育士)
- 子育てに悩む保護者への対応 (保育教諭)
- 先生の失敗談。(保育士)
- 今回の内容をもっと時間をかけてくわしく聞きたいです。(保育士)
- 同じ内容、または親育ての具体的にどうしたらよいか など (幼稚園教諭)
- はい!! (幼稚園教諭)
- 「親育て」の手法 (小学校教諭)
- 自己表現ができないで、苦しんでいる子への支援のあり方。自己肯定感のもてる性教育 (特に女子) (小学校教諭)
- 愛着に問題をかかえる子どもたちへの対応について (小学校教諭)
- 難しいところはあると思いますが、総論だけでなく、事例を紹介していただくとありがたいです。(小学校教諭)
- また明橋先生のお話しをお聞きしたいです。(小学校教諭)
- 登校しぶりの子への対応の仕方 (小学校教諭)
- 自己肯定感upのお話しPart 2 (小学校教諭)
- 被災地の子供と保護者の心のケア (小学校教諭)
- 現代ならではの心の病気などを防ぐ方法など事例などあげて講演をきければと思います。(特別支援学校教諭)
- 愛着障害の県外在住のDr (スペシャリスト) の講話 (養護教諭)
- 希望します。(養護教諭)
- 事例などを用いて、具体的にそのように子ども、親の自己肯定感を高めていく支援をしたのか、聞いてみたい。(養護教諭)
- 虐待を受けた子どものケアについて (養護教諭)
- 対象が幅広いので、話しが大枠になるように思います。絞ってもよいのかと。(教諭)
- 様々な形で見られる、子どもたちの発する困り感に、支援者がどう応えていくか。(行政)
- 育てにくい子、障がいまではいかないが「気になる子」との付き合い方、保護者への支援の方法 (地方公務員)
- 親が育てられない、親が知的に低い、親が精神疾患がある等。親へのアプローチがむずかしい場合の対応法を学びたいです。(行政)
- 発達障害等 (市役所職員)
- 学校以外で、学校の支援員 (不登校児、虐待など) をしている取り組みと関係機関との連携について (支援員)
- 今回は回復についてだったので、予防についてもっと詳しく知りたいと思いました。(NPO 法人子育て支援員)
- 社会的擁護について (ファミリーホーム生活補助)
- とても良い講演でした。ありがとうございました。(障害福祉サービス事業所職員)
- また、来年の研修会を楽しみにしています。(相談職)

- また、このような内容でお願いしたいです。(相談職)
- 「HSP」の対応 (相談職)
- 明橋先生が最近だされた HSC について (児童福祉司)
- 支援者支援、支援者自身のケア (臨床心理士)
- 親への具体的な対応方法 (保健師)
- 子どもの発達段階と、それに合わせた育て方、対応の仕方 (保健師)
- 今回のようなテーマ、講師で地域で親を対象としたもので開催できれば良いと思います。  
(保健師)
- 成人期の職場でのストレス、うつ病予防 (看護師)
- このような親子の関係についてのアドバイス、支援者としてのかかわり方について、今後も期待しています。(看護師)